

駅前開発で

小平のまちはどう変わるのか

市民が望むまちの姿とは？

長年懸案となってきた小川駅西口と小平駅北口周辺の駅前整備が市街地再開発の手法で検討されています。駅前開発は今後の小平のまちづくり全体に大きな影響を及ぼすものであり、将来を見据え市民全体の合意を得ながらすすめていく必要があります。

小川駅西口に、 高さ100メートルの 再開発ビルが建つ可能性も！

小平駅北口に先行し、2007年再開発準備組合が設立された小川駅西口地区は、2011年には事業協力者が決定し、駅前広場の整備と再開発ビルの建設事業計画がすすめられています。再開発事業というのは都市再開発法に基づくもので、具体的には老朽化した建物が密集している地区、都市整備が未整備な地区、狭い道路が多く防災面に不安がある地区に、再開発ビルを建設し、併せて道路やオープンスペースなどの整備を行う事業です。ビルの床の売却益で建設費や開発地内の土地の権利者への補償金などを捻出するた



再開発が予定されている小川駅西口前。
周辺の道路は狭くて危険なため、早急な改善が必要。

め、高層ビルの建設が前提になります。床が売れない場合は、自治体が購入せざるを得ず、多額の税金が投入されるケースが多いのが実情です。小川駅西口の再開発についても、採算を考え100メートル（30階程度）規模の再

開発ビルの建設が予想され、まちの姿が大きく変わることになります。狭くて危険な駅前の道路整備や地域の商店街の活性化は急がれますが、土地の値上がり期待できない今、高度成長時代の再開発の手法は時代遅れとの指摘もあります。

超高齢化社会を見据え、 市民合意に基づく 駅前整備を

駅前の再開発を進めるにあたり、小川駅周辺30ヘクタールについて、地域の課題を抽出しまちづくりの具体的な構想となる「まちづくりビジョン」の作成がすすんでいます。5回にわたるまちづくりワークショップで提案書がまとめられ、周辺住民の意見募集を経てまちづくり懇談会で確認、「小川駅前周辺まちづくりビジョン（提案書）」として市へ提案されました。

これを受けて現在庁内調整が行われ、10月にパブリックコメントが実施され、11月の都市計画審議会への報告を経て来年1月に策定の予定です。このまちづくりビジョンは都市計画マスタープランを補完する位置づけになり、プランの10年先まで視野に入れたものとな



小平市庁舎から見た東村山駅前再開発ビル。まちの風景が一変した。

っています。

小平駅北口については今年の2月に再開発協議会が設立されました。協議が始まったばかりであり、大いに議論をしながら進めていくべきです。

どのようなまちの姿を描くのか——地権者や周辺住民だけでなく幅広い市民への情報公開と参加を前提にまちの活性化やコミュニティの再生など時代のニーズに合った駅前整備を考えていくことが必要です。

